

随 想

くすりを安全に使いましょう

ハガグ ジャロミ ソヘイラ

Hagagoo Jahromi Soheila

だいたい皆さんは、くすりを飲んだことがあると思います。病気によってくすりの量はちがいます。たとえば、糖尿病とてんかんの患者さんは、毎日くすりを飲まなければなりません。でもふつうの人たちは、頭がいたくなったり、おなかが痛いときにだけ、すこしくすりを飲みます。いっぱい飲んできに、なんでもくすりには副作用があります。たとえば、口がかゆくなったり、ねむくなったり、胃腸刺激症状がでたり、低血圧になったりします。ですから、くすりを安全に使うことは病気を直すうえで非常に大切だとおもいます。そのためにいろいろな研究をやって、くすりの副作用を一つ一つしらべなければなりません。いまこの研究をやっていきます。

デオフィリンというくすりは、気管支ぜんそくのくすりです。それは、五十年まえから、ぜんそくの患者さんに使われていますけれど、でも心臓と脳と腸に副作用があるので、あぶなくって、使うのはむずかしくなっています。なん年もまえからテオフィリンのかわりになる、いいくすりがさがされています。それをみつけるために、テオフィリンの副作用がどうしてあるのかということをよく調べなければなりません。わたくしは、テオフィリンとほかの三つのだいたい同じ誘導体の副作用を、ねずみの脳で調べて、くらべました。それで、脳と血液の濃度から、テオフィリンの脳の副作用のメカニズムについていろいろ調べています。このような実験は、患者さんのために役に立つと思われま

す。これからも、みんないっしょに、いっしょうけんめいがんばって、ひとびとの健康のために、安全なくすりをつくりましょう。

(名古屋大学医学部放射線医学教室・大学院生)